

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

<b>事業名</b> 一般国道56号 <small>まつやまとかんじょうどうろくうこうせん</small> 松山外環状道路空港線	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 四国地方整備局			
<b>起終点</b> 自：愛媛県松山市余戸南 <small>えひめけんまつやましよごみなみ</small> 至：愛媛県松山市北吉田町 <small>えひめけんまつやましきたよしだまち</small>	<b>延長</b> 3.8km				
<b>事業概要</b> 松山外環状道路は、松山環状線の外側に計画された環状道路で、松山IC、松山空港、松山港、FAZ等の広域交通拠点や地域開発拠点とのアクセス性向上、市内中心部へ流入する交通の分散を図る地域高規格道路である。 松山外環状道路が開通すると、郊外からは市街地を通過せずに目的地への移動が可能になるため、市街地に用事のない通過交通の市内流入を減らし、市内の渋滞緩和が期待されている。 松山外環状道路のうち、国道56号から主要地方道松山空港線間（3.8km）は、一般国道56号松山外環状道路空港線として、自動車専用道路部は国土交通省、一般道路部は国土交通省、愛媛県、松山市が協同で整備を推進している。					
H20年度事業化	H2年度都市計画決定 (H19年度変更)	H23年度用地着手			
		H25年度工事着手			
全体事業費	529億円	事業進捗率			
		約25%			
計画交通量	12,100～17,200台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.2	総費用 (残事業/事業全体) 322/392億円 事業費：316/386億円 維持管理費：5.8/5.8億円	総便益 (残事業/事業全体) 487/487億円 走行時間短縮便益：389/389億円 走行経費減少便益：67/67億円 交通事故減少便益：31/31億円	基準年 平成25年
	(残事業)	1.5			
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C= 1.00～1.4（交通量±10%） 事業費：B/C= 1.1～1.4（事業費±10%） 事業期間：B/C= 1.1～1.4（事業期間±20%） 【残事業】交通量：B/C= 1.2～1.7（交通量±10%） 事業費：B/C= 1.4～1.7（事業費±10%） 事業期間：B/C= 1.3～1.7（事業期間±20%）					
<b>事業の効果等</b> 松山IC、松山空港、松山港等の広域交通拠点とのアクセス性の向上や、市内中心部へ流入する交通を分散することで、市内の交通渋滞緩和など、多様な整備効果が期待できる。					
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の時間損失の削減が見込まれる ・現道等における旅行速度が向上 ・松山市内中心部の渋滞緩和により路線バスの定時性が向上し、利用者の利便性が向上 ・松山ICから松山空港（第二種空港）へのアクセスが向上し、松山空港1時間圏域人口が増加					
②物流効率化の支援 ・松山ICと松山港（重要港湾）へのアクセスが向上					
③都市の再生 ・「愛媛県広域道路整備基本計画」で位置付けられた環状道路					
④国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路の整備区間指定あり ・日常活動圏中心都市（伊予市、東温市、砥部町）へのアクセス向上					
⑤個性ある地域の形成 ・H29年開催予定「愛媛国体」のメイン会場である松山中央公園と松山空港間の円滑な交通確保 ・主要観光地（松山城、道後温泉）へのアクセス向上					
⑥安全で安心できるくらしの確保 ・周辺道路網の混雑が解消され、三次医療施設へのアクセス環境が改善					
⑦安全な生活環境の確保 ・周辺道路の交通量が減少することで交通事故の減少が見込まれる					
⑧災害への備え ・一次緊急輸送道路に指定されている					
⑨地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる					
⑩生活環境の改善・保全 ・NOx、SPM排出量の削減が見込まれる ・松山都市圏幹線道路懇談会において景観検討を展開					
⑪その他 ・松山広域都市計画区域マスタープランに位置付けられている					

- ・FAZへのアクセスを支援
- ・南海トラフ巨大地震発生時における迅速な輸送・救援を支援

関係する地方公共団体等の意見  
地域から頂いた主な意見等

- ・松山都市圏道路整備促進期成同盟会より、積極的な整備促進について要望活動が続けられている。

愛媛県知事の意見：

- ・「対応方針（原案）」案については異議ありません。松山外環状道路空港線については、高速道路の松山ICと松山空港等を結ぶとともに、松山都市圏の渋滞緩和による観光の振興や地域産業の活性化等に資する重要な道路であり、早期の供用に向けた整備の促進をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成24年3月（都）千舟町古川線 全線開通
- ・平成25年6月 松山外環状道路インター線（側道部） 延長1.3km 部分開通
- ・平成26年3月 松山外環状道路インター線（本線部） 延長1.2km 暫定2車線開通（井門IC～古川IC）
- ・平成27年3月 松山外環状道路インター線（本線部） 延長1.8km 暫定2車線開通（市坪IC～余戸南IC）（その他）
- ・平成20年4月 大型ショッピングセンター（松前町）オープン

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成28年3月末で用地取得率約80%、事業進捗率約25%。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・平成29年の余戸南IC（仮称）～東垣生IC（仮称）間の側道部（延長2.4km）開通に向け、用地買収・改良及び橋梁工事を推進中。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造等の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。
- ※ 費用対効果分析結果及び感度分析の結果の欄に係る数値は、平成25年度評価時点。